

市長に就任された、今の率直な気持ちをお聞かせください。

これまでの県議会議員とは異なり、市長という立場はいろいろなこととの判断が求められます。大変な重責を感じつつ市民のみなさんの声に添えていきたいという思いです。今は新型コロナウイルスが市民生活に大きな影響を及ぼす中で、本市も重大な危機感を持って対応に当たっています。安定した市民サービスを提供するためには、行政が機能不全になることが一番怖い。そのリスクを軽減するために、職員が交代で出勤する分散型の体制づくりに取り組んでいます。いつ感染者が出てもおかしくないという危機感を持って、業務に当たっています。

市で取り組むべき喫緊の課題は何だとお考えですか？

選挙公約に掲げた「安心・安全・安定 活力のある安芸高田市」を実現するために、まず大切なことは、「市民のみなさんがいつもどおりの暮らしを送れているか」ということ。今は、新型コロナウイルス対策、一昨年の豪雨災害の復旧を急

ンや田んぼアートプロジェクトなど、新しい観光事業が進行しています。これらは、単体で楽しんでもらうためのもではなく、市内を周遊してもらうための取り組み。市内のあちろちろに出向いてもらい、市の素晴らしいところをたくさん感じてほしい。それにより観光人口、交流人口を増やすことを目的にしています。本市には磨けば光る宝がたくさんあります。こうした宝が輝き、市民のみなさんが誇れるようなまちにすることが私の夢です。



4月に一部オープンした「道の駅三矢の里あきたかた」

優先して取り組みたい事業はありますか？

本市はインターネット環境が整備されて、デジタル化が進んでいるまちです。お太助フォンには、告知放送、通話、テレビ電話機能がありますが、まだまだ有効に活用できる余



これからの

安芸高田市

私たちの暮らしのこと

児玉浩 新市長

に聞きました

地があると感じています。また、インターネット環境が整っていることで、サテライトオフィスなどの企業誘致

も可能。市内では学校の統合による遊休資産や利用されていない市有地がかなりあります。これらを活用すれば、まちの活性化の一翼を担うはず。本市は、夜の人口に比べて昼の人口が多い。つまり、市外から市内に働きに来ている方が多いということ。そうした方に本市の素晴らしい暮らしやすさが伝われば、定住につながるはず。本市では0.1アールから農地付きの住宅を提供するなど、定住しやすい環境を整えています。市の魅力を伝える一番の方法は口コミ。SNSを活用して移住者の生の声を届けるなど、発信力も強化していきたいと考えています。人口減対策、デジタル化、この2つを優先して取り組みたい事業に位置付けています。



企業誘致にも積極的に取り組みます

県議会議員としての活動は、これからも生かせようですか？

県議会議員の大切な仕事は、選挙区のみなさんの意見や生の声を県に届けることです。これは行政機関との連携がないとなかなか難しいこと。21年間、県議会議員を務め、行政・市民・県の橋渡しをすることで、私自身、幅広い人間関係を構築することができました。商工会や医師会など市内のあらゆる団体とネットワークがあることは、これからの仕事に生かせると感じています。

これからどんな市にしたいと思われていますか？

公約に掲げた「安心・安全・安定」は、市民のみなさんが当たり前暮らしができる環境を整えること。それを叶えるために、財政の健全化は欠かせません。市内には、合併前に建てられた庁舎や学校などの公的施設が点在しています。こうした施設の維持管理にかかる経費の問題にも着手し、市民のみなさんの理解を得ながら、コストの縮減を図っていく必要があります。と同時に、施設の効率的な利用についても議論を重ね

ピッチを進めていかなければいけないと考えています。それに加えて少子高齢化をカバーする多文化共生やオフィス業務を自動化・効率化する「RPA（ロボットによる業務自動化）」の導入による職員の負担軽減（＝市民サービスの向上）、財政の健全化など、取り組むたいことは山積しています。地域の活性化という面では、道の駅三矢の里あきたかたのオープ



まだまだ現役で頑張っています!!

ていきたいと考えています。すべての施策の先にあるのは、住んでいる方が誇りを持てるまちづくり。神楽やホテル、カタクリなど、本市には市外に向けて自慢できる資源がたくさんあります。これからはそうした魅力を発信する広報活動にも力を注いでいきたいですね。そしてこれは余談ですが、私は学生時代から野球、駅伝、柔道など様々なスポーツに親しんできました。スポーツは豊かな心と体を育てます。サンフレッチェ広島やワクナガレオリックなど、現役の選手を招いたスポーツ教室など、スポーツを通してまちが元気になるような事業にも取り組んでいきたいです。

ご意見、お気軽にお聞かせください



農作業の後に愛犬トランプくん(14歳)と